

令和 4年度 施策評価シート（令和 3年度実績評価）

政策 03 こころ豊かに暮らせるまち  
 施策 01 学校教育の充実  
 主管課： 学校教育課  
 関係課： 市民協働推進課、生涯学習課、教育指導課、学校給食センター

1 施策の目的

対象（誰、何を対象としているか） 児童生徒	意図（どのような状態にしたいのか） 学校生活を楽しく過ごし、心身ともに健康で人間性豊かな人に成長できるまちをつくる。 社会の変化に対応した行動ができる子どもを育成する。
--------------------------	--

2 施策の成果状況（意図の達成度を図る成果指標とその動向）

学校が楽しいと思う児童の割合（小学生）							（%）	学校教育課
基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）		
92.70	93.80	93.80	95.70	94.30	94.10	95.00		
向上指針	上がると良い	（状況）昨年度よりも0.2ポイント下落していますが、基準値よりは高く、目標値達成に近い指標値になっています。 （原因）令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年度に引き続き、休業措置や学校行事等の中止が続きました。アンケートでも「友達と楽しく生活している」は1.7ポイントの微増、「学校授業が楽しく勉強が分かるか」は1.1ポイントの微減となっており、児童の満足度は横這いからやや低くなっている状況にあります。						
対前年度	横ばい							
目標達成度	中							
次年度課題	課題としない							

学校が楽しいと思う生徒の割合（中学生）							（%）	学校教育課
基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）		
85.80	88.60	90.90	90.90	83.40	88.60	90.00		
向上指針	上がると良い	（状況）昨年度に比べ5.2ポイント増加し、目標値達成に近い指標値になっています。 （原因）令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年度に引き続き、休業措置や学校行事等の中止が続きました。一方、県南大会や県大会など体育大会は一部再開されたため、生徒の満足度が高くなったと考えられます。アンケートでも「友達と楽しく生活している」は2ポイント増、「学校授業が楽しく勉強が分かるか」は1ポイントの微増となっています。						
対前年度	向上							
目標達成度	中							
次年度課題	課題としない							

基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）		
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
向上指針								
対前年度								
目標達成度								
次年度課題								

3 施策に係るコスト（単位：千円）

	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
	決算	決算	決算	予算	見込
事業費合計	1,703,287	2,988,216	3,624,040	3,064,917	999,367
人件費	66,087	59,327	84,049	0	0
トータルコスト	1,769,374	3,047,543	3,708,089	3,064,917	999,367

4 基本事業の状況

基本事業名称	成果指標の動向				事業費				
					R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
01 確かな学力の育成			向上		77,746	168,548	175,087	181,020	81,372
02 豊かな心を育む教育の推進	向上	低下			17,160	28,744	36,085	48,414	48,414
03 健康と体力を育む教育の推進			向上		507,785	504,553	506,480	633,067	18,041
04 時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	向上	向上			265,626	712,159	412,276	316,014	354,716
05 開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携	横ば	低下			0	0	0	0	0
06 安全・安心な教育環境の整備	向上				663,369	1,379,054	2,299,699	1,639,817	317,972
99 施策の総合推進					171,601	195,158	194,413	246,585	178,852

5 施策全体の取組状況と課題

前年度の取組内容、成果及び次年度以降に向けた課題

<p>一人1台端末整備を完了させ、授業支援アプリやデジタル教材を活用して授業改善に取り組んだほか、小学校教科担任制を充実し、学力向上を図りました。また、市独自のスクールソーシャルワーカー配置や総合教育支援センターと連携したいじめ対策会議の継続等、児童生徒に寄り添い、安心安全な環境確保に努めました。さらに、密回避のための校外学習バス増便等、ウイズコロナに配慮した新しい学校生活様式の確立や、地域人材活用のためのスクール人材バンクを設立しました。今後は、児童生徒の情報活用能力育成と情報モラル教育実</p>	推進状況	順調
	次年度への課題	課題あり
	成果方向性	向上
	コスト方向性	増加

当該年度の全庁決定の方向性（前年度の全庁政策会議での決定事項）

<p>コロナ時代における学校での新しい生活様式「第3次学校教育改革プラン」に基づき、ICT機器を活用した授業の展開、学校と家庭のデジタル連携、ICT教育を推進する体制を構築します。また、いじめ・不登校ゼロを目標に強化週間の創設やスクールソーシャルワーカーを配備します。その他、児童生徒の心と体を育てるために、通常より昼休み時間を長く設定し、体力及びコミュニケーション能力等の向上に努めます。新型コロナウイルスに対応する新しい学校生活様式を確立させるため、各学校に感染症対策消耗品等を配備するとともに、学校環境サポーターの配置や校外学習のバス増便分の補助等を行います。</p>	成果方向性	向上
	コスト方向性	削減

次年度の方向性

<p>一人1台端末を活用したオンライン英会話等により、新学習指導要領で重視される4技能育成に努めます。更に、フリースペースを充実させて学校に「心の居場所」を創り、不登校児童生徒の解消に努めるとともに、総合教育支援センターとスクールソーシャルワーカーの連携により、いじめの早期発見・対応・解決を図ります。また、新施設となり可能となったアレルギー対応給食を、より安全に提供できるよう食物アレルギー対応マニュアルを策定する等の対策を進めます。併せて、市内全体の児童生徒数の平準化を進めて適切な学習環境の確保を図り、子どもたちが心身両面で楽しく、安心して過ごせる学校環境を確保します。</p>	成果方向性	向上
	コスト方向性	維持